

(資料43) 所内公募型研究制度の実施状況

1. 平成17年度奨励研究実施状況

平成17年度においては、基盤的研究20課題、長期モニタリング3課題の計23課題を実施した。

タイプ	課題代表者	研究課題名	研究期間	17年度 予算額 (千円)	内部評価結果						
					A の数	B の数	C の数	D の数	E の数	評 価 人 数	
基盤的研究 (20課題)	(平成17年度継続課題 評価対象1課題 採択1課題)										
	矢部 徹	藻場根圏における酸化還元環境と再生技術としての酸素管の活用	16～18	3,000	0	11	6	0	0	17	
	(平成17年度新規課題 提案課題30課題 採択19課題)										
	井上 健一郎	ナノ素材が気道炎症及び血液凝固・線溶異常に与える影響	17	2,500	6	9	2	0	0	17	
	小熊 宏之	Kuバンド合成開口レーダによる国土森林バイオマスモニタリングのための基礎研究	17	2,500	7	7	3	1	0	18	
	須藤 洋志	H ₂ , CO, CH ₄ マルチ検出器の検討	17	2,500	6	10	3	1	0	20	
	村上 進亮	金属資源ストック・フローモデルの動学化に関する基礎的研究	17	2,000	5	9	3	1	0	18	
	柳澤 利枝	ナノ素材がアトピー性皮膚炎に及ぼす影響とそのメカニズムの解明に関する研究	17	2,500	4	7	6	0	0	17	
	長屋 雅人	変異原性をリアルタイム検出するための遺伝子導入魚の作製	17	2,500	4	9	5	1	0	19	
	豊柴 博義	遺伝子ネットワークのリスク評価への適応	17	2,500	4	8	3	2	0	17	
	中島 英彰	地上赤外分光観測による微量気体成分高度分布導出手法の高度化のための研究	17	2,500	1	8	4	0	0	13	
	齊藤 拓也	熱帯植物からの八口カーボン放出過程	17	2,500	4	10	5	2	0	21	
	下山 宏	一般航空機で測定可能な新しいCO ₂ フラックス測定法の提案	17	1,500	3	10	6	1	0	20	
	川嶋 貴治	鳥類生殖巣キメラの成立には何個のドナー細胞が必要か？	17	2,500	3	7	8	0	0	18	
	日引 聡	排出ガス規制が自動車産業における企業の研究開発と生産性へ及ぼす影響に関する実証研究：ポーター仮説の検証	17	2,500	5	4	11	0	0	20	
	丸山 若重	数理モデルを用いた大気汚染物質の健康リスク評価手法の開発	17	1,800	3	9	5	2	0	19	
	菅野 さな枝	原子間力顕微鏡を用いたナノ粒子の細胞への取り込みに関する研究	17	2,500	2	10	5	2	0	19	
	柏田 祥策	透明メダカにおける化学物質感受性のヒメダカおよび野生メダカとの比較研究	17	2,500	3	7	7	1	0	18	
	塚原 伸治	In vivo神経活動イメージングによる化学物質の脳への影響評価法の確	17	2,500	2	7	7	1	0	17	
	Tin Tin Win Shwe	様々な学習段階におけるマウスの脳機能を調べるための in vivoマイクロダイアリシスの確立	17	2,500	0	9	8	0	0	17	
藤井 実	マテリアルリサイクル製品の資源・環境面から見た価値の計算手法	17	2,000	0	11	7	1	0	19		
田中 智章	吸収線形の隔壁における振る舞いについて	17	2,500	2	5	12	1	0	20		
			小計	47,800							
長期モニタリング (3課題)	(平成17年度評価対象課題3課題 継続3課題 採択3課題)										
	横内 陽子	南半球におけるVOC(揮発性有機化合物)のベースラインモニタリング	13～17	7,600	15	4	0	0	0	19	
	中村 泰男	有明海等における高レベル栄養塩濃度維持機構に関する研究：適正な浅海域管理をめざして	14～18	6,000	15	4	0	0	0	19	
	富岡 典子	霞ヶ浦エコトーンにおける生物群集と物質循環に関する長期モニタリング	15～19	6,000	1	7	8	2	0	18	
			小計	19,600							
			合計	67,400							

2.平成17年度後期奨励研究実施状況

研究を進めていく途上で生じた研究課題に対応するため、17年度後期に実施する所内奨励研究として
 基盤的研究13課題を実施した。

タイプ	課題代表者	研究課題名	研究期間	平成17年度 予算額 (千円)	内部評価結果					評価 人数
					A の数	B の数	C の数	D の数	E の数	
基盤的研究 (13課題)	(平成17年度評価対象課題21課題 採択13課題)									
	曾根 秀子	化学物質暴露による次世代影響の予測システムの開発のための基礎的研究	17	2,000	6	11	1	0	0	18
	河地 正伸	有害藻類Chattonellaにおけるマイクロサテライトマーカーの開発	17～18	1,000	4	11	3	0	0	18
	中路 達郎	根圏炭素貯留速度の解明に向けた地中分光画像計測装置の開発	17～18	1,500	3	11	1	1	0	16
	田野井 孝子	炭化水素生産緑藻Botryococcusの大量繁殖機構に関する研究	17～18	1,000	3	12	3	0	0	18
	鈴木 剛	ハウスダスト中の既知/未知ダイオキシン様活性物質の同定検索	17	2,000	1	14	2	0	0	17
	渡邊 英宏	興奮性および抑制性神経伝達物質のin vivo同時濃度計測の実証に関する研究	17～18	1,000	4	8	6	0	0	18
	劉 農	中国における食生活の変化が窒素フロー変動に及ぼす影響の現地調査研究	17～18	1,455	3	6	7	0	0	16
	高村 健二	河道堰堤が河川生態系の規模・構造に及ぼす影響	17	2,000	4	4	7	1	0	16
	福島 路生	リモートセンシングによる絶滅危惧種イトウ(Hucho perryi)の産卵個体検出	17～18	500	2	6	6	1	0	15
	吉田 幸生	氷晶非球形散乱を考慮したCO2気柱量推定アルゴリズムの高精度化	17～18	1,200	4	4	7	2	0	17
	梁 乃申	土壌吸収による温暖化影響の評価	17～18	1,700	1	7	8	0	0	16
	江口 菜穂	ラジオゾンデ・ゴム気球搭載用の湿度計を用いた上部対流圏の水蒸気観測	17～18	1,200	2	7	6	0	1	16
武田 知己	レーザスキャナを用いた定点連続測定による森林計測技術の開発	17～18	1,600	0	8	8	0	0	16	
合計				18,155						

〔評価〕

- A 大変優れている
- B 優れている
- C 普通(研究の実施は可とする)
- D やや改善が必要
- E 大幅な改善が必要

3. 平成17年度特別研究実施状況

平成17年度においては、新規4課題を含む10課題を実施した。

(新規採択分)

課題代表者名	研究課題名	研究期間	17年度 予算額 (千円)	内部評価結果						外部評価結果					
				A の 数	B の 数	C の 数	D の 数	E の 数	評 価 人 数	A の 数	B の 数	C の 数	D の 数	E の 数	評 価 人 数
高野 裕久	環境化学物質の高次複合影響を総合的に評価するin vivoモデルの開発と検証	17～19	20,000	9	8	2	0	0	19	4	3	0	0	0	7
小林 伸治	身近な交通の最適化による環境負荷削減効果に関する研究	17～19	20,000	7	5	4	0	0	16	2	5	0	0	0	7
桑名 貴	鳥類体細胞を用いた子孫個体の創出	17～19	20,000	6	8	5	0	0	19	2	5	0	0	0	7
鈴木 規之	化学物質の多次元総合化リスク評価と管理に関する研究(FS)	17	8,000	4	7	6	0	0	17	0	5	2	0	0	7

(継続分)

課題代表者名	研究課題名	研究期間	17年度 予算額 (千円)
畠山 史郎	大規模広域大気汚染に関する国際共同研究	13～17	13,100
野原 精一	湿地生態系の自然再生技術評価に関する研究	15～17	20,000
藤巻 秀和	有機化学物質情報の生体内高次メモリー機能の解明とそれに基づくリスク評価手法の開発に関する研究	15～17	20,000
柴田 康行	有機フッ素化合物等POPs様汚染物質の発生源評価・対策並びに汚染実態解明のための基盤技術開発に関する研究	15～17	20,000
野原 恵子	トキシコゲノミクスを利用した環境汚染物質のヒト・生物への影響評価法の開発	16～18	25,000
今井 章雄	有機物リンケージと生物機能に基づいた湖沼環境改善シナリオの提言	16～18	20,000

【評価】

A:大変優れている

B:優れている

C:普通(研究の実施は可とする)

D:やや改善が必要

E:改善が必要